

学校教育目標：自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成									
項目	中期目標	行動指針	主な取組内容	取組内容の評価指標	年度末検証(達成状況)	自己評価	次年度に向けて	関係者評価講評	関係者評価
確かな学力	〇〇学力の改善向上	授業改善・学力向上 全教員で授業改善(個別最適・協働的な学び等)を図り、児童の学力向上につなげる。	1.授業改善 ○授業づくり講座【8/21教材研究会・11/1授業研究会】(文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官：笠井健一先生) ○全校研【5回】(東部教育事務所：上村指導主事)事前事後研究の充実と資質・能力ベースの授業づくり ○ICT(クラウド)を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。【授業スタンダードをベースに】 ○「主体的・対話的で深い学び」を、どのように学ぶかという視点で捉え、発達段階に応じた実践研究の推進 ○各種学力調査の自校採点(全国学調・県版学調)及び分析会の実施及び担当学年の指導の在り方の共有と共通実践 ○校外の授業研究会等への参加と研修内容の職員周知 ○板書交流や教員間での授業参観の継続 2.学力の向上 ○ICT活用研修の実施【年3回以上】 ○校外の研修会等への参加と研修内容の職員周知 ○全学年プログラミング教育の実施とAI人材の育成 ○ICT(クラウド等)を活用した取組の推進 ○AIドリルの活用と基礎学力(主要4教科)の定着 ○朝学習(MIM)やステップアップタイム、放課後加力指導等の充実(習熟度・個人選択など)	1.授業改善 ○「授業で学んだことが分かる」肯定的評価85%以上 ○「授業中よく考え、自分の意見を進んで発表できている」肯定的評価85%以上 ○「タブレットを使って学んだり、調べたり、まとめたりすることができている(3年生以上)」肯定的評価90%以上 ○教師の「分かりやすい授業を行っている」肯定的評価90%以上 ○全教員で授業研究や各種学調分析等を行い、児童の学力向上につながる共通実践を行う。 2.学力の向上 ○全国学調：算国全国平均並、正答率40%以下0名 ○県版学調：算国理県平均並、正答率40%以下0名 ○総合学調(12月)：算国全国平均並、正答率40%以下0名	1.授業改善 ・「授業で学んだことが分かる」肯定的評価91.9% ・「授業中よく考え、自分の意見を進んで発表できている」肯定的評価71.0% ・「タブレットを使って学んだり、調べたり、まとめたりすることができている(3年生以上)」肯定的評価90.0% ・教師の「分かりやすい授業を行っている」80% ・児童の「分かりやすい授業をしてくれている」85.5% 2.学力の向上 ・全国学調全国比(6年生：国語未達成、算数達成)、正答率40%以下：国語未達成、算数達成 ・県版学調県比(4年国語・算数未達成△、5年国語・算数・理科達成○)。正答率40%以下：4年国語・算数未達成△、5年国語・算数・理科未達成△ ・総合学調(12月)全国比：国語(1年・2年・3年・6年達成)○、算数(1年・2年・3年・6年達成)○。正答率40%以下：6年国語のみ未達成 ⇒算数の教材研究会・授業研究会を、1～6年生の全担任が6セット行い、算数科における授業改善が進み、全学年成果が上ってきている。ICTの授業への活用も進み、児童の活用能力も高くなっている。しかしながら、自分の意見や思い、考えを言語化することに課題がある。	B	①主体的・対話的で深い学びが実現される授業改善 ②個別最適・協働的な学び、探究的な学習など、少人数(複式学級)に応じた研究の推進 ③各種学力調査の分析し、各学年の授業改善に関する共有と共通実践を図る ④校外の授業研究会等への参加と研修内容の職員周知 ⑤ICT(クラウド等)やAIドリルの活用推進 ⇒本校児童は、少人数の固定化された人間関係で育ってきており、「あの友達が言ってくれる。その通りにしたらいい」など、受身的な学びとなっている児童もいる。来年度は、上記の研究を推進し、異年齢のいろいろな人と関わったり、一人一人の児童が興味や疑問をもったことを追究したりする探究的な学びにも力を入れ、児童主体の授業づくりを展開していきたい。4年生の国語の結果は、県平均との差が大きい。制限時間内に問題を解けていないことに原因があるので、授業における言語活動の充実を図り、習熟問題・プリント等を工夫していく。	・先生による教材研究や授業研究、ICT活用や加力学習、家庭学習等の取組により、算数の学力向上が見られる。今後も、学習に積極的に向かう姿勢は大切に、「分かる」。できたという経験を味わえるようにして欲しい。 ・安芸っ子クラブで宿題等を見ていると、「文章を読み取る力」が付いていないと感じることがある。「読解力」は全ての教科の学習に大切なので、「読解力」を身に付ける取組の充実を図る必要がある。少人数に応じた「読む」「書く」「話す」「読み取る」「伝え合う」力を伸ばしていきたい。 ・音楽や図画工作、体育、道徳など学習の中で、情操を育む教育も大切にしてほしい。	B
		体力づくり 体力テストの分析をもとに課題を明確にし、体育授業の改善を図り、日常的な運動習慣を身に付けさせる。	<体力づくり> ○年間指導計画に沿った体育指導の充実 ○全ての運動領域にわたって、「わたしたちの体育」や「ここの子どもも体力・運動能力向上プログラム」を効果的に活用し、計画的に指導する。 ○「あめて」から「振り返り」までの流れを明確にした授業を行い、タブレットも効果的に活用し、授業内での知識・技能の伸長を図る。 ○体力テストの結果分析から課題を明確にし、日常的な運動・遊びや体育の授業で課題の改善を図る。 ○適切な運動環境の整備を行い、学校行事との関連も図りながら運動の楽しさに触れる機会を設ける。	<体力づくり> ○体力テスト全種目で全国・県比以上、総合評価DE群の割合10%以下 ○児童の「運動やスポーツをすることが好き」肯定的評価男女共に90%以上 ○児童の「体育の授業が楽しい」肯定的評価男女共に90%以上	<体力づくり> ・5年生体力テストT得点：男子全国・県比-2.5、女子全国比+7.3、県比+6.8。総合評価DE群の割合21.4%(男子のみ) ・「運動やスポーツをすることが好き」87.5% △ ・「体育の授業が楽しい」90.4% ⇒5年生の男子はソフトボール投げのみ全国県比を上回っていた。女子は7/9項目も全国県比を上回っていた。全体的に、運動や体育が好きな児童は増えてきている。	B	①全校的な体力づくりの継続 ⇒5年生の女子は体格もよく、体力や運動能力も高い児童が多いが、男子は体力や運動能力に課題がある。今後も、全校的な体育授業の改善や共通取組の実施、休み時間等の遊び方など、運動に慣れ親しむことが習慣化されるように工夫していく。 ②基本的生活習慣の確立 ⇒生活リズムの改善は、少しずつではあるが改善傾向が見られている。今後も、メディアに依存し過ぎない取組を継続し、「早寝・早起き・朝ご飯」が定着するよう、家庭とも連携して取り組んでいく。肥満傾向が高い児童の家庭には、個別の声掛けを行う。	・体力テストの数値が5年生だけなので、他学年の様子も知りたい。 ・安芸っ子クラブで運動をする際に、運動が苦手な子どもも見られる。同じことばかりでなく、いろいろな動きができるようになる取組を、今後も全校的に取り組んでみたい。 ・早寝やメディアとの付き合い方について、家庭とも連携して取り組み、成果が上がってきている。一時期だけでなく、継続的に取り組めるよう家庭への呼びかけをお願いしたい。 ・不登校(登校しぶり)の子どもに、ゲームやスマホ依存の傾向がみられるので、未然防止の対策をお願いしたい。	B
健やかな体	〇〇体力づくり	健康づくり ・朝食摂取率の向上 ・生活リズム調査における数値の向上	<基本的生活習慣> ○生活リズム調査(5月・9月・1月)を計画的に実施し、評価を行う。 ○保健だより、掲示物などを活用した全体への保健指導、および保健室を中心とした個別への保健指導を行う。 ○メディア使用についての授業を全学年で行い、年間2回ノーメディアチャレンジを行う。	<基本的生活習慣> ○学校評価アンケート：「早寝・早起きをするように気を付けている」90%、「好き嫌いをせずに食べている」90% ○生活リズムチェック：早寝達成率70%、朝食95%、ノーメディアチャレンジ30%、メディアルール40%	<基本的生活習慣> ・学校評価アンケート：「早寝・早起きをするように気を付けている」89.3%、「好き嫌いをせずに食べている」75% ・生活リズムチェック：早寝達成率73% ・朝食95% ・ノーメディアチャレンジ74.6% ・メディアルール69.2% ⇒「早寝」については達成率を下げていた要因であるメディアに関する取組を重点的に実施したことで目標を達成することができた。「朝食摂取率」は高い割合で推移している。メディアとの付き合い方も学期ごとによくなっている。	B	①全校的な体力づくりの継続 ⇒5年生の女子は体格もよく、体力や運動能力も高い児童が多いが、男子は体力や運動能力に課題がある。今後も、全校的な体育授業の改善や共通取組の実施、休み時間等の遊び方など、運動に慣れ親しむことが習慣化されるように工夫していく。 ②基本的生活習慣の確立 ⇒生活リズムの改善は、少しずつではあるが改善傾向が見られている。今後も、メディアに依存し過ぎない取組を継続し、「早寝・早起き・朝ご飯」が定着するよう、家庭とも連携して取り組んでいく。肥満傾向が高い児童の家庭には、個別の声掛けを行う。	・体力テストの数値が5年生だけなので、他学年の様子も知りたい。 ・安芸っ子クラブで運動をする際に、運動が苦手な子どもも見られる。同じことばかりでなく、いろいろな動きができるようになる取組を、今後も全校的に取り組んでみたい。 ・早寝やメディアとの付き合い方について、家庭とも連携して取り組み、成果が上がってきている。一時期だけでなく、継続的に取り組めるよう家庭への呼びかけをお願いしたい。 ・不登校(登校しぶり)の子どもに、ゲームやスマホ依存の傾向がみられるので、未然防止の対策をお願いしたい。	B
		人間関係づくり(特別活動、道徳・人権・特別支援教育の充実) 信頼と安心で結ばれた温かい学級集団づくりを行う。	<人間関係づくり> ○生徒指導の四機能(「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」)を生かした学級(授業)づくり ・非認知能力「自分に関する力(自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信等)、人と関わる力(協調性、共感性、思いやり、社交性、道徳性等)」の安定と向上を図る。 ・ユニバーサルデザインの学級(授業)づくりの推進と「ふわふわ(ちくちく)言葉」、「ほめ言葉のシャワー」の取組 ○各学年に応じた特別活動(学級活動等)の充実 ・学級活動の研究推進：「川北スタンダード」の周知(年度当初に師範授業)、児童がPDCAサイクルを意識できる成果物(5つの「や」)の作成 ・児童一人一人が輝く、持続可能な特別活動の取組 ・委員会活動の充実(児童の「やりたい」思いを軸に) ・異学年交流の活性化(縦割り班活動、仲良し集会) ・朝の集会の充実(学年発表、集会後の肯定的評価) ○Q-Uの実施(年2回、1年生のみ1回)と分析(PDCA) ・学級における自己肯定感が低く、人間関係に悩みを抱えている可能性がある)0名を目指し、居心地のよい学級づくりに努める。 ○特別な支援が必要な児童(家庭)等への支援や指導のあり方の共通理解と共通実践 ・特別支援学級児童及び配慮が必要な児童(家庭)についての共通理解と共通実践 ○計画的な校内支援会の実施 ○道徳教育の充実(「高知の道徳」の活用) ・道徳の全学年公開授業と道徳授業の板書交流 ・「道徳意識調査(年2回)」,「学校評価アンケート(年1回)」の実施と集計、分析	<人間関係づくり> ○道徳意識調査：「いじめはどんな理由があってもいけない」100%、「自分にはよいところがある」将来の夢や目標をもっている」肯定的評価80%以上、「学校のきまりを守っている」肯定的評価90%以上 ○学校評価：「学校生活が楽しい」「チャイム席を守っている」「無言で隅々まで掃除している」「気持ちのよい挨拶や返事ができている」肯定的評価90%以上 ○開発的予防的な校内支援会の実施、全学級学期に1回実施。学級崩壊0。Q-U学級生活不満足群10%以下	<人間関係づくり> ・道徳意識調査：「いじめはどんな理由があってもいけない」96.8%、「自分にはよいところがある」将来の夢や目標をもっている」88.7% ・「学校のきまりを守っている」83.9% ⇒自尊感情の数値が目標値を下回っているが、1学期より少し向上した。「夢や目標をもっている」も大きく上がっている。「きまりを守る」が目標値を大きく下回っているが、学校全体に荒れはない。 ・学校評価：「学校生活が楽しい」85.5% ・「チャイム席を守っている」77.4% ・「無言で隅々まで掃除している」93.5% ・「気持ちのよい挨拶や返事ができている」85.5% ⇒児童の自己評価では、掃除と挨拶はよくできている。学校生活が楽しいが1学期よりも少なくなっている。「チャイム席」は大きく下がっているが、休み時間終了のチャイム前には教室に帰る姿が見られている。全項目9割を目指していきたい。 ・開発的予防的な校内支援会の実施、全学級学期に1回実施。学級崩壊0。Q-U学級生活不満足群約16%(要支援1名) ⇒校内支援会を計画的に実施し、学級崩壊もないのだが、学級生活に不満のある児童の割合が高い。来年度は複式学級も想定される。要支援0名、不満足群の割合が減るよう、特別活動や道徳・人権教育に力を入れていきたい。	B	①生徒指導の四機能を生かした学級(授業)づくりの継続 ②非認知能力「自分に関する力・人と関わる力」の安定と向上を目指して、家庭や地域と連携した取組の推進 ③ユニバーサルデザインの学級(授業)づくりの推進と特別な支援が必要な児童(家庭)についての共通理解と共通実践 ④各学年に応じた特別活動(学級活動等)の充実 ⑤計画的な校内支援会・支援ミーティングの実施 ⇒「いじめいけない」は100%を目指し、「学校が楽しい」は90%以上となるよう、縦割り班活動や異年齢交流、児童の「やってみたい」を大切にした取組を大切にしていきたい。学校行事や地域行事、地域との交流の中でも、児童の成長を保護者や地域の方々に認めていただき、励ましや誉め言葉により自尊感情(自己肯定感)を高めていきたい。教職員も、命令や否定語ばかりでなく、肯定形の指導助言ができるよう指導力・意識改革を進めていきたい。	・安芸っ子クラブでも、仲間外れや、上級生から下級生へのきつい言葉などのケースが見受けられ、その都度指導もしてきた。上級生も下級生も、みんなが仲良くする楽しくなるような声掛けや遊びができるようになってほしい。 ・嫌なことを言われたりされたらしたら、「やめて」と言えば、誰かに相談できるよう、身近ないじめをなくしていきたい。 ・特別な支援や課題等がある子どもに対して、家庭やSC、SSW、各教育関係機関とも連携して、今後も取り組んでみたい。	B
豊かな心	〇〇防犯・防災・安全指導 新規不登校を生み出さず、欠席日数が減少した児童の割合を増加させる。	生徒指導(いじめ・不登校対応) 新規不登校を生み出さず、欠席日数が減少した児童の割合を増加させる。	<生徒指導(いじめ・不登校対応)> ○特別な支援等が必要な児童理解のための定期的な情報共有と共通実践(月1回以上、随時) ○計画的な校内支援会・支援ミーティングの実施(学期毎に全学級実施) ○Q-Uの効果的な活用(PDCA) ○学校生活(いじめ)アンケートの実施年3回(実践の検証)	<生徒指導(いじめ・不登校対応)> ○不登校傾向の児童0名(新規不登校0名)、暴力行為0件。 ○いじめの解消率が前年度よりも向上 ○開発的生徒指導に基づいた実践研究の推進 ○「分からない時や困った時に相談できる友達がいる」90%以上	<生徒指導(いじめ・不登校対応)> ・不登校児童2名(継続1名・新規1名)、暴力行為0件。 △ ・「分からない時や困った時に相談できる友達がいる」93.5% ⇒いじめの重大事案については発生していない。いじめアンケートも学期ごとに実施しており、開発的予防的生徒指導に基づいた実践を継続している。	B	①特別な支援等が必要な児童(家庭)理解のための定期的な情報共有と共通実践 ・是永先生訪問(2回) ・SCとSSW、福祉・医療・教育関係機関との連携 ・いじめや不登校の未然防止 ⇒新規不登校0名、いじめの未然防止と早期対応に取り組む。	・不登校については、改善傾向の子どももおり、来年度は新規不登校を生み出さず、家庭や教育関係機関、SC、SSWとも連携して取り組んでみたい。 ・月を追うごとに時間外勤務時間の平均が下がってきている。先生に、校時変更など、放課後のゆとりをもたせられるような取組に期待する。 ・避難訓練については、この冬、川北地区で実施した夜間避難訓練など、学校にいない時の訓練への参加もお願いしたい。様々なケースを想定した実効性のある訓練に、地域と共にして欲しい。また、保育所との合同避難の実施も検討してほしい。 ・統合した安芸中学校を中心とした保幼小中連携や、保護者・地域との連携については、これまで同様継続し、安芸市や地元を大事にする子どもの育成に努めてみたい。	B
		働き方改革とメンタルヘルス 教員一人あたりの時間外在校等時間が減少させる。	<働き方改革とメンタルヘルス> ○校務支援システム、グループウェアの活用 ○教員業務支援員の有効活用 ○各種会議や行事等の精選とペーパーレス化の推進 ○教員一人あたりの時間外勤務時間を前年度比3%以上削減 ○風通しの良い職場づくりの推進「何でも構いません。分からないこと、困ったことがありましたら、早めにブロック団・管理職等に相談を！」(随時声掛け)	<働き方改革とメンタルヘルス> ○校務支援システムの活用 ○教員業務支援員の有効活用 ○各種会議や行事等の精選とペーパーレス化の推進 ○教員一人あたりの時間外勤務時間を前年度比3%以上削減 ○風通しの良い職場づくりの推進「何でも構いません。分からないこと、困ったことがありましたら、早めにブロック団・管理職等に相談を！」(随時声掛け)	<働き方改革とメンタルヘルス> ○全教職員の時間外在校等時間を月80時間以内(月45時間以上の月年間3か月以内) ○精神疾患による病休者(病気休暇者及び1か月以上の病気休暇取得者)0名 ○職員会議等のペーパーレス化の定着	<働き方改革とメンタルヘルス> ・時間外在校等時間が月80時間以上：2名(1月ずつ)、月45時間以上勤務月(12月迄)：7か月3名、6か月1名、5か月1名△ ・精神疾患による病休者(病気休暇者及び1か月以上の病気休暇取得者)0名 ・職員会議等のペーパーレス化の定着 ⇒提出物が多い若年教員や研究主任、管理職に時間外が多い現状がある。	B	①働き方改革とメンタルヘルス対策の促進 ・校時表の見直し(16時下校) ・校務の精選 ・ペーパーレス化の推進 ・風通しの良い職場づくりの推進 ⇒時間外在校等時間月45時間以上の月年間5か月以内、精神疾患による病休者0名を目指す。	・先生と地域との交流機会も多く、風通しのよい職場づくりができていると感じる。教職員の異動もあるが、来年度も、子どもと保護者、地域と共に歩んでみたい。
基盤となる体制等	〇チーム川北の構築(保幼小中連携)	防災・安全教育の推進 児童が自ら命を守るために必要な知識・技能を身に付けられる授業や訓練を実施する。	<防災・安全教育の推進> ○児童自らが命を守るために必要な知識や技能を身に付けることを目的とした授業や実効性のある避難訓練(引渡訓練を含む)を年間5回以上実施 ○登下校等時の見守りなど、家庭や地域、関係諸機関との連携体制の維持	<防災・安全教育の推進> ○地震に関する避難訓練年間3回実施 ○火災に関する避難訓練年間1回実施 ○不審者対応訓練年間1回実施 ○学校評価「けがをしないように過ごしている」肯定的評価95%以上	<防災・安全教育の推進> ・避難訓練(地震3回、火災1回、不審者1回)実施○ ・「けがをしないように過ごしている」90.3% ⇒校内での大きな事故は発生していない。避難訓練は予定通り実施できたが、新しく設置された防災システムを活用した訓練(保護者も参加)を検討していく。	B	①実効性のある避難訓練(引渡訓練を含む)の実施 ・年間5回以上 ⇒児童自らが命を守るために必要な知識や技能を身に付けさせる。 保育所や保護者参加の合同避難訓練を計画したい。	・先生と地域との交流機会も多く、風通しのよい職場づくりができていると感じる。教職員の異動もあるが、来年度も、子どもと保護者、地域と共に歩んでみたい。	A
		保幼小中連携 保幼小中の教職員が、連携を密にすることで児童生徒の成長のための相互理解や実践を深める。	<保幼小中連携> ○安芸中学校区保幼小中連携の計画的な実施と、校区の児童生徒の学力保障と健全育成(不登校児の減少等)	<保幼小中連携> ○安芸中学校区保幼小中連携の計画的な実施と、校区の児童生徒の学力保障と健全育成(不登校児の減少等)	<保幼小中連携> ○安芸市連携教育研究会(保小中高)年間3回実施○ ○保小連絡会年間2回実施、保育所訪問(夏季休業中)及び意見交換○ ⇒児童生徒の学力保障と健全育成(生徒指導上の諸課題・不登校の未然防止等)についての情報共有や共通実践について協議することができた。	<保幼小中連携> ・安芸市連携教育研究会(保小中高)年間3回実施○ ・保小連絡会年間2回実施、保育所訪問(夏季休業中)及び意見交換○ ⇒児童生徒の学力保障と健全育成(生徒指導上の諸課題・不登校の未然防止等)についての情報共有や共通実践について協議することができた。	B	①風通しの良い職場環境づくり ・教職員個々のコンプライアンス意識を高め、不安や悩みを抱えさせず気軽に報連相ができる職場環境づくりの推進 ・不祥事0件 ・懲戒(免職・停職・減給・戒告)処分件数0件 ⇒ 違法とならぬ教職員の不祥事は発生していないが、研修会の欠席や、提出物の遅れなどの事案はある。報連相を怠らないよう管理職も注意していく。	・先生と地域との交流機会も多く、風通しのよい職場づくりができていると感じる。教職員の異動もあるが、来年度も、子どもと保護者、地域と共に歩んでみたい。
不祥事防止・職場づくり	〇不祥事防止・職場づくり	不祥事防止・職場づくり 教職員一人一人の能力が十分に発揮される風通しのよい職場環境づくりを行う。	<不祥事防止・職場づくり> ○不祥事防止・職場づくり ○コンプライアンス意識を高め、不安や悩みを抱えさせず気軽に報連相ができる風通しのよい職場環境づくりの推進 ○勤務研修年6回(学期始めと終わり年6回+随時) ○不祥事チェックリスト年3回(学期終わり) ○教職員学校評価アンケートの実施(12月)	<不祥事防止・職場づくり> ○風通しのよい(相談しやすい等)職場と感じている」と回答した教職員の割合90% ○不祥事0件 ○懲戒(免職・停職・減給・戒告)処分件数0件	<不祥事防止・職場づくり> ・報告連絡相談が円滑にできており、問題や課題を一人で抱え込まずに体制ができていく。 ・不祥事0件 ・懲戒(免職・停職・減給・戒告)処分件数0件 ⇒ 違法とならぬ教職員の不祥事は発生していないが、研修会の欠席や、提出物の遅れなどの事案はある。報連相を怠らないよう管理職も注意していく。	B	①風通しの良い職場環境づくり ・教職員個々のコンプライアンス意識を高め、不安や悩みを抱えさせず気軽に報連相ができる職場環境づくりの推進 ・不祥事0件、懲末書0件を目指して、お互いに声を掛け合って取り組む。	・先生と地域との交流機会も多く、風通しのよい職場づくりができていると感じる。教職員の異動もあるが、来年度も、子どもと保護者、地域と共に歩んでみたい。	A